

第7回

単一通貨ユーロの仕組み

8 欧州債務危機への対応(4)——銀行同盟

欧州債務危機の背景には、ギリシャの放漫財政、ポルトガルの恒常的な財政赤字に加え、公的資金の注入による銀行の救済の結果として財政支出が増大したという側面もありました。

アイルランドやスペインでは、世界金融危機の影響により不動産バブルがはじけて銀行が巨額の不良資産を抱え、経営危機に陥りました。両国政府は不良債権問題を解決して金融システムの安定を維持するため、銀行に公的資金の注入を行いました。しかしその結果、高水準の財政赤字や政府債務に直面し、金融支援を受けることになりました^①。

▶ 悪循環

他方、財政赤字や政府債務を抱える加盟国の国債を大量に保有するEU域内の銀行はそれらの国債の価格下落のため経営危機や破綻に直面しました。そうなると政府がまた銀行を公的資金で救済しなければならなくなり、ますます財政悪化が進みます。すなわち、政府の債務危機と銀行の危機には密接な関係があり、悪循環が生まれました。この問題は、金融支援枠組みの確立や財政規

① 羽森直子「ユーロ危機の原因」流通科学大学論集——経済・情報・政策編 22巻1号(2013年)99頁－123頁。

律の強化では解決することができませんでした。

▶ **銀行同盟**

ヨーロッパ大陸諸国では国債の消化を銀行に依存しますが、大手銀行は国債を大量に購入する見返りに政府の保護を受け、銀行監督も不十分になりやすいという欠点があります。その一方で、政府は国債の発行が容易なので過度な財政赤字や政府債務に陥りやすい傾向があります^②。そうなると、国債の価格が下落し、国債を発行する政府とそれを保有する銀行がともに危機に直面するという、先ほどお話しした悪循環が生じます。

そこで、このような悪循環を絶つため、「銀行同盟 (the Banking Union)」が構想されました。それは、ECBが大手銀行を直接監督することを中核とする「単一銀行監督機構 (the Single Supervisory Mechanism: SSM)」を設立すること (2014年11月より活動開始)、また、「単一破綻処理委員会 (the Single Resolution Board)」により運営される「単一破綻処理機構 (the Single Resolution Mechanism: SRM)」を設立すること (2015年1月より活動開始) を主な内容とします。

前者のSSMは銀行監督の権限を政府からECBに移行させて、政府を大手銀行から切り離します。また、後者のSRMも銀行の破綻処理の権限をEUのコミッションと単一破綻処理委員会に移行させることにより、政府と大銀行のもたれ合い関係を解消することが狙いです。

② 田中素香=長部重康=久保広正=岩田健治『現代ヨーロッパ経済』(有斐閣・第4版・2014年) 172頁-173頁。